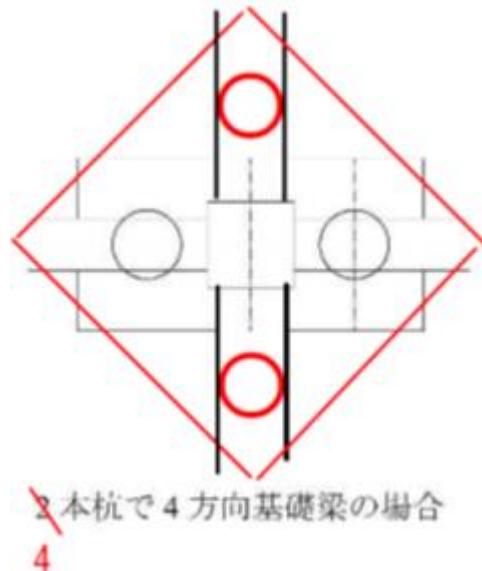


#### 質問（20 条関連）

RC 規準 Q&A の No. 20 では、「2 本打ち杭で直上に基礎梁がある場合、杭頭から伝達される曲げ・せん断力は基礎梁が負担するものとして、基礎スラブの複筋比は必ずしも 0.5 以上とする必要はありません」と回答されています。4 本打ちで下図のように 45 度回転した場合も、2 本打ちと同様に、杭頭から伝達される曲げ・せん断力は基礎梁が負担するものとして複筋比 0.5 以上とする必要は無いと解釈してよろしいでしょうか？



((株)ヒカリエンジニアリング 代表取締役 前田寛之)

#### 回答

No. 20 は  $x$  方向の基礎梁の下にのみ杭がある状態ですが、ご質問のようなディテールでは、直交方向の基礎梁の下にある杭も  $x$  方向の応力を負担することになります。この場合、当該の直交方向の基礎梁のねじりを介して応力が伝達されるため、これを基礎梁が負担できるか確認する必要があります。そのうえで、このねじり応力を含め杭頭から伝達されるすべての応力を基礎梁のみで負担し基礎スラブが応力を負担しなければ、基礎スラブは複筋比 0.5 以上としなくてよいでしょう。